

## 二頁だけの読書会

見開きからはじまる、知への旅

本のある見開き二頁をきっかけに、  
大阪大学の研究成果を  
参加者のみなさんと分かち合い、  
学び合うプログラムです。

### Vol.2 『カナダ・イヌイトの民族誌： 日常的実践のダイナミクス』

人類学の挑戦—「人類とは何者か」の答えを求めて

人類学とは「人類はどこから来て、どのような存在であり、どこに向かうのか」という人類の過去と現在と未来を問う学問である。この問いに答えるために、本書はあえて、カナダ極北圏の先住民、イヌイトという私たちと異なる人々に焦点をあてる。イヌイトの間で生活しながらフィールドワークを行うことで、どのような人類の姿が見えてくるのだろうか。今回は、多様な人々の日常生活の肌理を手がかりに「人類とは何者か」という問いに答えようとする人類学の挑戦を紹介する。

ゲスト：大村敬一（大阪大学大学院言語文化研究科・准教授）

日時：2014年4月21日（月）18時～20時（開場17時30分）

場所：りそな銀行梅田支店 りそなプライベートサロン Reラグゼ セミナールーム  
（大阪府大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビルオフィスタワー24階）

事前申込方法：4月2日（水）21時より、  
以下のウェブページにて先着順で申込を受け付けます。  
<http://www.lserp.osaka-u.ac.jp/ura/2pages.html>

定員：先着順30名（要事前申込）

参加費：無料

# 二頁だけの読書会 — 見開きからはじまる、知への旅

## Vol.2 『カナダ・イヌイトの民族誌：日常実践のダイナミクス』

人類学の挑戦 — 「人類とは何者か」の答えを求めて

ゲスト：大村 敬一（おおむら・けいいち）

1966年生まれ、早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。大阪大学大学院言語文化研究科准教授。専門は人類学。カナダの先住民であるイヌイトと北西海岸インディアンでのフィールドワークに基づいて、人類について探求している。著書に『カナダ・イヌイトの民族誌：日常実践の民族誌』（大阪大学出版会、2013）、共編著に『極北の森林の記憶イヌイトと北西海岸インディアンのアート』（昭和堂、2009）などがある。

### 本の紹介

『カナダ・イヌイトの民族誌：日常実践のダイナミクス』

著者：大村敬一、大阪大学出版会、2013

#### （本の概要）

イヌイトと総称されるカナダ極北圏の先住民は、その厳しい環境で1000年にわたって暮らすなかで、精細な知識と優れた生活技術を身につけてきた。こうした知識と技術は「在来知」と呼ばれている。本書では、その一つ、広大なツンドラの環境で迷うことなく的確なルートを見出すナビゲーションを焦点に、卓抜した在来知が日常生活のなかで培われている様子が生き活きと描き出される。フィールドワークでイヌイトと生活をともにしながら、ありふれた日常の生活実践を通して在来知が創造的に生み出されるプロセスを追跡することで、本書は人類学に新たな地平を拓いている。



### 関連図書（上記以外）

本多俊和、大村敬一、葛野浩昭『文化人類学研究：先住民の世界』放送大学教育振興会、2005  
齋藤玲子、岸上伸啓、大村敬一編『極北の森林の記憶イヌイトと北西海岸インディアンのアート』昭和堂、2009  
本多俊和、大村敬一編『グローバル化の人類学：争いと和解の諸相』放送大学教育振興会、2011  
フランツ・ボアズ著『プリミティブアート』言叢社、2011  
岡田浩樹、木村大治、大村敬一編『宇宙人類学の挑戦』昭和堂、2014  
岸上伸啓著『イヌイト：「極北の狩猟民」のいま』中公新書、2005  
岸上伸啓著『カナダ・イヌイトの食文化と社会変化』世界思想社、2007  
窪田幸子、野林厚志編『先住民とは誰か？』世界思想社、2009  
河合香史編『集団：人類社会の進化』京都大学学術出版会、2009  
菅原和孝編『身体化の人類学』世界思想社、2013  
ほか

### 会場までのアクセスマップ

りそな銀行梅田支店 りそなプライベート  
サロン Re ラグゼ セミナールーム  
（大阪市北区角田町 8-1 梅田阪急ビル  
オフィスタワー 24 階）



主催：大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室  
共催：大阪大学出版会、株式会社りそな銀行  
協力：大阪大学クリエイティブユニット、大阪大学 21 世紀懐徳堂

問合せ先 大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室 info-ura@lserp.osaka-u.ac.jp